

## ●魚類に就て

會員三重縣師範學校教員秋山達三氏よりの魚類の報告は左の如し。

*Diodon hystrix* ? (三十八年九月六日伊勢國津海岸阿漕浦にて漁夫の網にかゝる)

體は略長方形にして、頭部は幅廣く腹部は左右に膨起し且少しく側扁す頭部及び胴部の有様はヒキガヘルに鰭を附したるが如く見ゆ。

體長(腹面にて)一尺四寸五分(頭長四寸八分、胴長六寸七分、尾部二寸八分)體高三寸五分許。

口吻及額部は墨色にして眼窩の上部に濃黒帶あり而して此黒帶は眼の左右を取り圍み更に延長して眼窩の下部に於て幅一寸三分乃至一寸五分の黒帶をなし以て腹部に亘れり吻長二寸あり。

口腔は大きく左右に開在す上顎骨は前顎骨と共に頭骨に固着す而して顎は嘴狀をなし堅硬なり且上下兩顎共に中央には縫痕を有せず而して頭頂より口吻を見るときは恰もヒキガヘルの頭部を見るが如し。

眼は頭頂に近く左右に突出し眼徑一寸八分眼の上方にあ

る骨も著しく突出し而して額は凹めり眼の間隔は四寸あり。

鼻孔は眼窩の下前面即ち吻の背面に於て一對あり指狀の瓣を有す。

胸棘は短濶にして背部に近く存在す一棘(余は棘なりと考へば或は刺なり) 二十二刺あり。

脊棘は一基にして體の後端に存す形小さく十五刺あり色は淡黒色にして基部の左右に濃黒帶あり。

腹棘を缺く。

臀棘は脊棘と相對す十五刺あり肛門は臀棘の前方にあれども體の稍後端に存す。

尾棘は平たく九刺より成る其中央部より先端に亘りて濃黒色なり。

背部の中、胸の前方には不正四角形の濃黒帶あり此帶の幅廣き所は一寸七分あり且左右の長は五寸あり此黒帶の周圍は灰白色をなせり胸鰭前面の基部には淡黒色の斑點あり。

背部の中にて胸鰭の後方には左右一個宛の橢圓形をなせ

(379)

る濃黒色の斑點あり、其周圍は灰白色をなせり。

尾部に接する背部中央線に於て稍四角形をなせる濃黒帶ありて其周圍は同じく灰白色をなせり。

以上の四大斑點の間は淡黒色をなせども他の背面は灰白色なり體の側面に於て胸鰭の前方には長さ二寸幅最も廣き處一寸の横帶あり、それは淡黒色にして延長して腹面に達す而して他の側面は灰白色なり。

腹面は口吻部は淡黒色にして眼窩下の横帶は少しく茲に來れども他の大部分は白色なり。

體全面には鱗を有せず而して眼前部及眼下部の黒帶附近と額の中央とを除き他は凡て棘を有す眼窩上部及背面前半部の中央線附近にある棘は小なれども他の棘は大なり棘は深く皮膚中に埋没し之に植物の根の如く相連る其外面にあらはるゝ部分は長六七分に達し角質白色にして先端尖り且外向す腹面の棘は概して背面の者より小なり凡て棘は其基部に小黒液を有し且可動なり體全面の列を頭より尾部に向て數ふるときは背腹各凡二十數列あるべし。

尾部の上部側面には左右二對の硬固不動の棘あり而して尾部の末端に近き一對は稍長く他の一對即ち脊鰭に近き者は皮膚中に埋没す。又尾部の下面にして且臀鰭の上方に於て左右二對の硬固なる棘あれどもこは全く皮膚面にあらはれず。

#### 備考

本校生徒志摩郡答志村出身林兵次郎なるもの此標品を見て談す中に左の語あり。

「時々綱にかゝり又蟹女の取り來ることあり、時期は六月頃より九月頃迄體中の肉を悉く除き去り此中に「スリヌカ」を入れ天日に乾かし之を提燈となすと方言針フグ又提燈フグといふ」と。

尙秋山氏は本魚類前面圖及側面圖の寫眞を寄贈せられたり。此の魚は *Diodon holacanthus* にて *Synonym* は頗る多きも *D. hystrix* も *シノニム* の一なり氏が記載は明了にして中々詳しきも不必要の處もあり、誤れる處もあり、是れは近日當誌に連載すべき魚類圖說中に記入すべし、以後御問合せの節は實物を送られたし、尙圖說を出すに就

(381)

雜 錄

ては所々よりの標本を要する事多く、又成るべく寄贈せられたる者より早く記述し行く積りなれば御問合わせの節は同種を二個以上集め其一半に符箋、方言、採集場所を記して寄送せられたし、此の魚は九州長崎相州三崎等に採集せらるゝ故日本沿岸所々に産する者と知るべし。

(田中)

●播磨産蛇類に就て

大 上 宇 一

蛇類は吾人の好まざる動物なれば雜誌上にも其記載甚だ少なし本年は巳の年なれば紀念として日本産蛇類の解説を波江氏等に願度候播磨産は確なる者六種と思ふ其他に小生未知の種も在なるべし マムシ アヲダイシヤウ シマヘビ クロクチナワの四種は實檢したるも他の二種は標本に接せず然れども居ることは確かにて往々見る所なり。

(一)右四種中クロクチナワ一名カラスクチナワと云ふは恐く烏蛇なるべし大和本草に黒蛇は又ウシクチナワとあり訓蒙圖彙烏蛇(カラスクチナハ)物品識名にカラス

クチナハ風稍蛇とあり然れども波江氏目錄に終に此和名を見當らざるのみならず此度研究するに恐く氏の目錄になき者の如く考へらる故に蛇脱を送て考定を願ふ所なり今左に三四個の老幼標本に見る所を記さば

	體 鱗	腹 鱗	尾 鱗	體 長
極幼者	一	十九	一五二	凡九〇對 五寸五分
幼者	二	十九	一五五	凡八〇餘 九寸
成長者	三	十九	一五九	全 二尺計
送附の脱四	十九	一九	一五六	四〇(後切て見へず) 三寸計

右の鱗數より考ふると波江氏記載のヒバカリに相近し然れども是れヒバカリとも斷定しがたし ヒバカリは毒蛇の如く俗に云ひ又大和本草にも俗説を引て此く云へり將して此者がヒバカリなりや如何。

今シマヘビ アヲダイシヤウ等に比するに彼は顯顯鱗二對あれども是は一對なるにあり而して後眼鱗は明に三對あり。

成長者は背黒く腹白しやゝ若き者はやゝ白斑あり一尺より一尺五寸位の者は白斑あり腹鱗の兩側に黒小の圓點あり(前部に)前記一號の如き幼者は黒褐色にして縦に淡黄褐色の斑點あり此斑は五鱗なるが如し腹鱗の黒